最高のスパイス

銀雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最高のスパイス

【Nコード】

N1738R

【作者名】

銀雀

【あらすじ】

とある仲の良い新婚さんのお話。

初々しいような、そつでないような。

幸せな嫁視点から展開されております。

(前書き)

夫は中小企業で働いているサラリーマンです。
妻は時々喫茶のパートです。

そんな二人のゆるりな朝をどうぞ。

「…起きて」

私は目が覚めて早朝、隣の人を起こす。

さわさわと布団の音がする。

眠気が晴れない様子が目立つ彼を見て笑みを溢した。

「おはよう」

おはよう、の返事をもらうと二人の温もりから離れた私は、窓に向かい光の侵入を許した。

朝食にはトーストを二人分焼いた。

味付けはバターだけのプレーンなトースト。

飲み物にはコーヒー。

質素なものに見えても私には充実感が溢れている。

食器のふれ合う音が静かに聞こえた。

「今日も9時頃になると思う」

スーツに着替えながら彼は言う。

私は食器の洗浄中にそれを聞いた。

「うん、わかった」

一旦水道を止め、静けさを材料に返事をした。
緩やかな語調になってしまつのは彼の雰囲気酔わされてしまつから。

少し経つてビジネスマンに変わった彼を見送りに彼の荷物を持ち、玄關へ行く。

二人の好奇心で始めたこのドラマチックな演出はもう日課になり、演出ではなくなった。

「じゃ、行つてきます」

今ではもう数えきれないぐらいの光景でもいつも必ず目を見て言うてくれる。

まるで、初めてかのように、私を見てくれる。

「行つてらっしゃい」

一瞬だけの開閉。

少して笑顔を洩らす変態な自分がある。

初々しさは未だに捨てきれない。

変わり映えのない毎日でも、質素な朝食でも、全てがとても綺麗で新鮮な毎日になる。

いつかは子どもが出来て、段々歳もとつていき、時間が減っていく。私には、その全てを幸せに味わえる自信がある。

彼がいてくれるおかげで、私の世界はどこまでも色づくから。

彼は、私にとっての

最高のスパイス。

(後書き)

記念すべき一作目となりました。

どちらかという詩ような調子になってしまいましたが、平和なものをテーマに、こういうの憧れる、とアバウトな気持ちで書きました。

関係性が大人っぽくて素敵だと思います。

それがうまく伝えることが出来ていたらうれしいです。

にしても、新婚さんでこれだけ落ち着いているならなかなか良い将来を送ってくださるんじゃないでしょうか。

微笑ましいです。

私ならきつと声だけで起こすなんて出来ません()

構ってちゃんは豪快にアタックかまします、すいません。

読んでくださって、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1738r/>

最高のスパイス

2011年10月8日19時03分発行